

真鶴町立真鶴中学校

研究テーマ：

目標を持って、主体的に学ぶ力の育成
—幼小中、12年間の学びを見通した授業づくり—

1 実践の目的

変化の激しい現代社会では、学ぶ意欲や主体性を育み、激しい変化に対応できる力を養うことが求められている。目的意識をもって、他者と協力しながら課題を解決していく能力を育成することが必要であり、主体的に学ぶ力の育成の重要性は増している。これを踏まえ、今年度は新たに「目標を持って、主体的に学ぶ力の育成」を主題として校内研究に取り組む。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については中央教育審議会答申において「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか」という視点が示されている。この視点に立ち、主体的に学ぶ力の育成のために、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を計画的に行うこととした。

真鶴町では今年度、「幼小中一貫教育校」を立ち上げる方針が出された。これまでの幼稚園、小学校、中学校での連携の成果を受け継ぎ、一貫校立ち上げに向けて12年間を見通した新たな真鶴町の教育が求められている。目標を持って、主体的に学ぶ力の育成を行うにあたって、中学校卒業時の真鶴の子どもたちの姿を思い描き、幼小中12年間の系統的な学びづくりに取り組んでいきたい。

2 実践の内容

(1) 研究の進め方

- 学習のめあてとまとめを明確に位置づけ、生徒みんなが「わかる・できる」授業に視点をおいて、授業改善に取り組む。
- 1人1回以上は、教科で授業提案を行う。学年ごとに3つのグループに分け、お互いの授業を参観し、研究協議をして授業改善に役立てる。
- 幼小中12年間の学びを意識し、小学校における学習の程度を把握した上で各分野の指導にあたる。そのために、小学校の授業を積極的に参観する。
- 年度初めに教科で「生徒の実態」「生徒につけたい力」「具体的な指導方法」を考え実践し、年度終わりには「実践」「成果と課題」をまとめる。

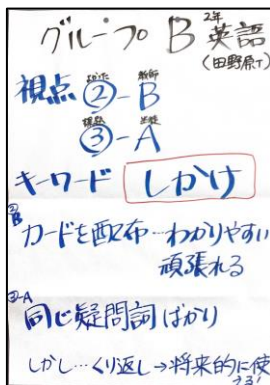
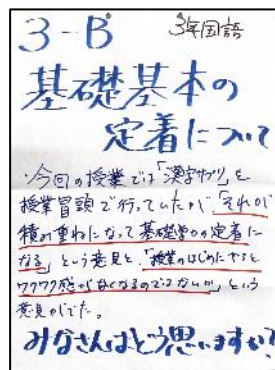
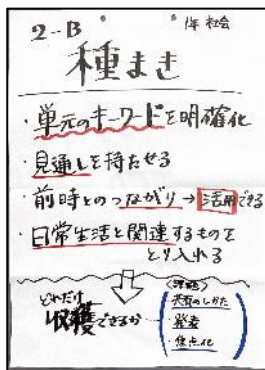
(2) 授業提案・研究協議の様子

各学年グループの代表者が授業提案をした。代表の授業について、以下3つの視点に留意し、チェックリストを活用しながら事前に指導案検討を行った。

- ①「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」のつながりを意識した授業展開となっているか。
- ②生徒の実態を踏まえ、「わかる・できる」授業に視点を置いた工夫がされているか。
- ③幼小中12年間の学びを意識し、既習事項を活用した授業となっているか。

各グループで検討した授業を参観し、研究会で協議を行った。

協議のまとめと活動の様子は次のとおり。



協議後は指導主事より指導助言をいただいた。主体的な学びの実現に重視されている「めあて」「見通し」「対話」「振り返り」を意識した授業改善が行えていたが、生徒アンケートからは「見通しを持ったり、振り返ったりしながら学習に取り組んでいるか」という問いに対して否定的な回答が多く見られることから、主体的な学びにつながる見通しや振り返りを工夫していく必要があるとの指摘があった。さらに、主体的で対話的な深い学びは1単位時間の授業の中だけで実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で生み出されていくといった視点を持つことも重要であることを確認した。

(3) 幼小中合同教育研究会

真鶴町立の幼稚園・小学校・中学校で幼小中一貫教育校実現に向けた課題の整理、12年間を見通したカリキュラムの再編・再考、実践研究を行った。「ふるさと教育」「ICT教育」「外国語教育」の3つの部会

を定期的に行い、現状の把握と今後の方針について話し合いを重ねた。毎年、園・小・中が順番に授業公開を行うこととなっていて、今年度はひなづる幼稚園の活動を全員で参観した。

(4) まなびづくり研修会

1月25日(月)川崎市立はるひ野小中学校で校長をされていた本間先生より講演をいただいた。真鶴町が今後小中一貫校を目指すにあたって、はるひ野小中学校立ち上げまでの話を聞くことで、今後予想される課題などについて考えることができた。

3 実践の成果

授業提案にむけて、参観するメンバーで指導案検討を行い、効果的な授業展開を考え、授業実践をすることができた。授業改善チェックリストを活用し、1授業時間内で、めあての提示、授業の展開、まとめと振り返り、という流れを意識した授業づくりを進めることができた。また、日ごろの生徒の様子や、QUの分析を活用し、そのクラスの生徒に寄り添った授業の展開を共に考えることができた。

幼稚園と小学校の授業を参観する機会を得ることができ、それぞれの学びについて知ることができた。また、中学校の授業を見てもらうこともでき、互いに学習のつながりについての意見交換やICTの活用状況、話し合い活動の進め方などについて情報交換ができた。

4 今後の展開

- ・見通しや振り返りの仕方を工夫し、生徒が粘り強く、主体的に学ぶ力につなげる。
- ・小学校とのつながりを意識し、12年間を見通したカリキュラム編成を進める。